

6. 事業内容	今年度は、過去 2 年間の活動の成果をベースに以下の活動を行う予定である（活動詳細については、別添を参照のこと）。 イ) 対象地域の省・郡・コミューンの保健施設の改善を行う。 ● トアンザオ郡 Rang Dong コミューンのポリクリニックの産科室の建設 ● トアンザオ郡 Rang Dong コミューンのポリクリニックに対して産科ケアに関する機材の供与（産前健診セット、分娩介助セット、会陰切開・縫合セット、子宮頸管縫合セット、婦人科健診用器具セット、医薬品保管庫、分娩台、医療器具テーブル、冷蔵庫等） ロ) 住民の妊産婦・新生児ケアサービスへのアクセスを向上させる。 ● 一、二年次に研修を実施し、コミュニティでのリファラル体制として構築した 32 の搬送サポート・チームに対して、模擬訓練などを含んだフォローアップ研修を実施 ハ) 郡・コミューン・村落レベルの保健スタッフの妊産婦・新生児ケアに関する知識・スキルを向上させる。 ● 妊産婦・新生児ケアに関して、38 名の保健スタッフに対する研修実施、二年次に研修を受けた 29 名の村落出産介助者へのフォローアップ研修実施 二) 保健スタッフや村落保健員、村落出産介助者の妊産婦・新生児ケアにおける行動変容コミュニケーション（BCC）の知識・スキルの改善を行う。 ● 郡レベルの保健スタッフからなる 20 名の BCC トレーナー・チームに対する BCC 技術の TOT 実施 ● TOT を受けた BCC トレーナーによる他の保健スタッフや村落保健員、村落出産介助者、約 140 名に対する BCC 技術の研修実施 ホ) 妊産婦や保護者への、妊産婦・新生児ケアに関する知識の普及を目指す。 ● 妊産婦や保護者に対する、BCC 手法による啓発活動の実施
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	<u>①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）</u> （2014 年 7 月末日現在） （イ）省病院と対象 2 郡病院へ機材提供による新生児室の設置、2 郡病院の産科室および 1 郡病院の産科手術室へ備品供与、2 コミューン保健センターの産科室の増設と備品供与を行った。 ● 保健サービスを利用する妊産婦や新生児がより安全で清潔なサービスを受けることが可能になった。 ● 改修・機材供与を行ったムオンチャ郡病院の産科手術室では、帝王切開などの手術も安全に実施できるようになった。 ● 事業一年目の期間に、224 人の産婦が保健施設において出産を行った（全体の 26%、去年より 3%増）。 ● 郡病院に供与した血液冷蔵庫とパック、併せて実施した輸血に関する研

	修により、両病院に輸血のためのシステムが強化された。 ● コミューン保健センターに提供した胎児心拍測定器（ドップラー）は、巡回サービスの際に妊産婦に喜ばれており、妊産婦の間で産前健診への関心が高まりつつある。 ● 各保健施設に供与した備品は適切に使用されており、事業開始前より適切な保健サービスを行うことが出来るようになっている。 （ロ）保健施設から遠隔にある 32 村落において、「リファラル体制」を構築し、約 140 名に対して緊急時のリファラル方法の研修を行った。 ● 村落レベルでは新しい取り組みであったが、地域カウンターパートからその役割の重要性を認められており、すでに緊急搬送も 1 件行われた。 （ハ）保健サービスの質を向上させるために、のべ 105 名の保健スタッフに対して、医療研修やモニタリング評価の方法についての研修を行った。二年次には、28 名の保健スタッフに対する、医療研修を実施中である。さらに、20 名に対して村落出産助産者育成研修を開始している。 ● 輸血に関する研修は、産科以外のすべての科のスタッフにも参加してもらったことで、基本的な血液検査は各科で随時行うことができるようになり、効率的に業務を行えるようになった。 ● これまでの活動期間にハノイ市で医療技術研修を受けたすべての保健スタッフが研修後のテストに合格し、国立医療研修センターより修了証を取得し、各勤務地で学んだことを実際の業務に使っている。 （ハ）各郡で、郡病院の母子保健チームや、コミュニティ保健スタッフによるスーパーバイズ・チームのメンバーの再編成を行い、合計 66 名に対してモニタリング・評価研修を実施した。 ● スーパーバイズ・チームは継続的に村落に赴き、村落のコミュニケーション技術の向上のためのアドバイスを行っている。 （ホ）BCC コミュニケーター合計 140 名へ TOT 研修を通して BCC 手法の研修を行った。研修後の知識テストでは優秀な成績を修める人は 82%に上った（研修前は受講者の 47%が平均以下、53%が並）。 ● 研修を受けたコミュニケーション技術は、学んだコミュニケーション技術を月毎に村落で行う保健クラブや家庭訪問において取り入れている。 （ヘ）KAP（知識・態度・行動）調査を実施して、BCC の内容を決めた。保健クラブの活動、家庭訪問を行い、作成したポスターや冊子を使用している。 ● 作成したポスターや冊子を活用して、保健クラブや家庭訪問において文字が読めなくてもわかりやすいメッセージを伝えることができている。 ● 草の根レベルにおける知識の伝達方法、コミュニティにおける共存の場として、コミュニティにもその有効性が認められつつある。 ● 保健クラブのモニタリングの結果から、継続して参加している母親たちの妊娠期の母親のケアや新生児ケアについての知識は少しずつ増えてきている。
--	---

	②これまでの事業を通じての課題・問題点 ● カウンターパートの郡人民委員会、郡病院や省の母子保健センターの年次計画及び予算の確定時期と本事業の申請時期にずれがあるため、活動の開始前での再協議の際に、活動の内容の再調整が必要となった。 ● 事業地では、慣習的に自宅出産が主流である。啓発活動を通して、継続的に施設分娩の推奨を行っているが、行動変容には時間がかかるため、啓発活動の効果が見えにくい。 ③上記②に対する今後の対応策 ● カウンターパートとの連絡を密接に行い、カウンターパートの自主性を尊重しつつ、より効果的に実施できるように調整を行う。また必要に応じては、適宜活動内容に修正を加える。 ● 行動変容を促す効果的な啓発活動となるよう工夫し、引き続き啓発活動を行っていく。当事業の三年間が終わった後も啓発活動が継続され効果が現れるように、カウンターパートとの連携を強化し、活動が引き継がれていくように努める。またワールド・ビジョンが同地域で実施している地域開発プログラムでも、定期的にモニタリングを行う。
8. 期待される成果と成果を測る指標	事業実施により裨益すると予想される人数 （事業三年間） 合計受益者数：約 140,000 人 直接受益者：対象 2 郡 7 コミューンに住む 15-49 歳の女性：約 5,800 人、同地で 3 年間に生まれる見込みの新生児：約 2,400 人、支援対象地域の保健スタッフ（省、コミュニティ、郡）：約 55 人、村落保健員と村落出産助産者：約 120 人 間接受益者：約 131,500 人（対象 2 郡の地域住民） <u>事業により期待される成果</u> 【成果 1】対象地域の郡・コミュニティ・村落レベルで、妊産婦・新生児ケアサービスが提供できるようになる。 指標： ● 地域の 3 割の妊産婦が施設で分娩を行うようになる。 【成果 2】対象郡、コミュニティおよび村落における通常時及び緊急時の妊産婦・新生児ケアサービスの質が向上する。 指標： ● 本事業で研修を受けた郡・コミュニティ保健スタッフの 7 割が、基準で求められている通常分娩と緊急産科ケアについての知識を有するようになる。 ● 8 割の郡・コミュニティ保健スタッフが産前・産後健診を行うようになる。 ● 8 割の出産助産者が基礎的な妊産婦・新生児のケアについての知識を有するようになる。 ● 保健サービスを利用した地域の女性たちの保健サービスに対する満足度が、事業開始時より向上する。 【成果 3】対象地域に住む母親や保護者が適切な妊産婦・新生児ケアを実

	践できるようになる。 指標： ● 3 割の妊婦が妊娠期間中に 3 回の産前健診を受けるようになる。 ● 7 割の妊婦が研修を受けた出産介助者による分娩介助を受けるようになる（自宅分娩/施設分娩）。 ● BCC コミュニケーターの 7 割が妊産婦・新生児ケアにおける BCC についての知識と技術を有するようになる。 ● BCC 啓発を受けた 5 割の地域住民が、妊娠・出産期において妊産婦と保護者が注意すべき点を 3 つ以上挙げられるようになる。 ● BCC 啓発を受けた 5 割の地域の女性が、BCC で勧められたアドバイスを実践したことがあると答える。 ● BCC 啓発を受けた 7 割の地域の女性が、妊娠・出産・産後期間中における 3 つ以上の危険サインを挙げられるようになる。 ● BCC 啓発を受けた 7 割の地域の女性が、新生児の危険サインを 3 つ以上挙げられるようになる。
--	--